

◆シリーズ／地方版図柄入りナンバープレート促進のために

地方版図柄入りナンバープレートから、  
地域の人々の熱意を感じ取る

(自由民主党自動車整備議員連盟会長・オートバイ議員連盟会長・バス議員連盟会長)

衆議院議員 逢沢 一郎

42

ナンバープレートを通して、  
いかなる社会メッセージを出すのか

参議院議員 有村 治子

48



◆内閣府国際平和協力政策最前線 54

## わが国の国際平和協力活動の現状と課題

内閣府国際平和協力本部事務局参事官 植草 泰彦



◆経済産業省素材産業政策最前線 60

## 素材産業の国際競争力強化とCN、GX実現に向けた取り組み

経済産業省製造産業局素材産業課長 土屋 博史



◆日本近代化遺構視察レポート 90

## 「東京湾第二海堡」から、わが国近代史的一面に思いを馳せる

行政情報の総合誌

時評 2024.12

## PATROL

官邸/内閣府

6

石破 茂／平 将明  
城内 実／新井ゆたか

総務省

8

村上誠一郎／豊嶋 基暢  
湯本 博信／池田 達雄

法務省

10

鈴木 豊祐／丸山 秀治

外務省

11

岩屋 毅／鷲 博行

財務省

12

加藤 勝信／宇波 弘貴

金融庁

13

井藤 英樹／油布 志行

文部科学省

14

あべ 俊子／茂里 毅  
米田 あゆ／江尻 省

厚生労働省

16

福岡 資麿／黒田 秀郎  
鹿沼 均／間 隆一郎

農林水産省

18

三野 敏克／山本 泰司

経済産業省

19

武藤 容治／飯田 祐二

国土交通省

20

中野 洋昌／山本 巧  
鶴田 浩久／平岡 成哲

環境省

22

浅尾慶一郎／白石 隆夫

防衛省

23

中谷 元／内倉 浩昭

日銀

24

植田 和男／福留 朗裕

◆総務省サイバーセキュリティ政策最前線



26

ICTサイバー  
セキュリティの  
中期重点方針総務省サイバーセキュリティ統括官  
山内 智生

◆国土交通省上下水道政策最前線



36

統合されたわが国  
上下水道政策の今後国土交通省上下水道審議官  
松原 誠

行政情報の総合誌

# 時評 2024.12

78 末松広行と語る、危機を乗り越えるトップの決断とは



## 開拓者精神をもとに、 海外輸出の進行で急成長

シティ青果成田市場株式会社  
代表取締役社長 豊田 達也



68 一戦後人の発想 露置き露の干るがごと 俵 孝太郎

## 石破 VS 野田政局は ロートルの黄昏合戦

多言数窮

32

政治と行政の違い・災害の視点から

国土学総合研究所長 大石 久和

アジアの小窓

97

活気にあふれる街（KL）は健在

アジア母子福祉協会理事長 寺井 融

「悪党」の世直し論

92

政治を安定させるためには

小田原松玄

菜々子の一刀両断！ってわけにはいかないか・・・

100

江東区の選挙総評価

総合社会政策研究所 寺内 香澄

## CONTENTS

### TOPICS

- 文化シャッター、地球温暖化対策として“遮熱事業”を展開／文化シャッター株式会社 25  
浜松ウエルネス・ラボツアーを実施／浜松ウエルネス・ラボ 35  
浜松ヘルステックシンポジウムを開催／浜松市 67  
「バス危機突破」総決起大会／日本バス協会が深刻な運転士不足を訴え開催 99

### 著者に聞く

- 『フランス人記者、日本の学校に驚く』（西村カリン 著） 76  
編集室だより 106 表紙のことば 落田 実 106

城内 実 氏  
経済安全保障担当大臣  
PATROL

城内実経済安全保障担当相は11月12日の記者会見で、石破茂首相がAI（人工知能）や半導体分野に2030年度までに1兆円以上の公的支援を行う枠組みを新たに設ける方針を表明したことについて「半導体やAIをはじめとするプログラムの利活用にも必要な計算基盤は、国民生活や産業に不可欠な存在であるとともに、デジタル社会を支える重要な基盤だ」とした

## 半導体供給網強靭化の意義を強調

米国内生産を図るトランプ政権誕生で不安残る



上で、「それらのサプライチェーン（供給網）の強靭化は、経済安保の観点からも極めて重要な課題だ」と強調した。半導体は経済安保推進法の「特定重要物資」に当たり、先端半導体の国产化は国全体の競争力を左右しかねない。これが、トランプ米次期大統領の誕生によって影響を受けるとの指摘がある。

トランプ政権では対中国政策において経済安保の面では厳しい対応を取るとみられる。一方で、トランプ氏は米国内での半導体生産を強く主張しており、日本における米国系企業との先

れ、第二次石破茂内閣が発足した。首相は同日夜の記者会見で、政策の取りまとめに関し「他党にも丁寧に意見を聞き、幅広い合意形成が図られるよう指示した」と述べた。低姿勢を強調し、政権運営にあたる考えだ。

国民民主党が衆院選で訴えた「103万円の壁」に関しては、同党と自公両党の調整が急務となっている。地方自治体からは

■総理大臣  
石破 茂 氏  
PATROL

## 低姿勢に終始 「丁寧に意見聞く」



本格外遊で南米へ、トランプ氏との早期会談は見送り

反発の声も出ており、「筋縄ではないか」というテーマだ。

国会は12月第1週から本格論戦に入る。予算委員長ポストを野党が握っているため、首相にとっては厳しい審議になる。民主党総裁としては党内融和を図り、来年の参院選をにらんだ動きが必要となってくる。

首相は11月15日からペルーで行われたAPEC（アジア太平洋経済協力）会議に出席し、バイデン米大統領や中国の習近平国家主席と会談した。本格外遊デビューを果たしたわけだが、滞滯で首脳の記念撮影に間に合わないというトラブルも。

日米関係では、南米外遊に合わせて模索していた首相と次期米大統領・トランプ氏との早期会談が見送られた。米側は就任前にはどの国の首脳とも会わないとの方針だ。トランプ氏との信頼関係構築はやはり容易ではない。

内政外交ともに課題は山積している。首相のリーダーシップが問われている。

■消費者庁長官  
新井ゆたか 氏  
PATROL



## 放射性物質の基礎について発信

食品に関するリスクコミュニケーション

平将明デジタル相は11月7日、首相官邸で石破茂首相と面会し、サイバー攻撃に先手を打つ被害を防ぐ「能動的サイバー防御」（ACD）関連法案の早期の国会提出に向け、策定作業を加速するよう指示を受けた。法案をめぐっては、首相交代と衆院選を受けて政府内の議論が停滞している。平氏は翌8日の記者会見で「サイバー攻撃は日常的に行われており、国民

平将明デジタル相は11月7日、首相官邸で石破茂首相と面会し、サイバー攻撃に先手を打つ被害を防ぐ「能動的サイバー防御」（ACD）関連法案の早期の国会提出に向け、策定作業を加速するよう指示を受けた。法案をめぐっては、首相交代と衆院選を受けて政府内の議論が停滞している。平氏は翌8日の記者会見で「サイバー攻撃は日常的に行われており、国民

## 能動的サイバー 防御に意欲



重要インフラへの攻撃に危機感示すも議論は停滞

の危機感は結構強いと思う」と述べ、意欲を示した。

ACDは平時から通信を監視し、重要なインフラなどに対するサイバー攻撃の危険性が高い場合は相手方のサーバーに侵入して無効化するなど対抗手段を講じる仕組みだ。日本では、2022年12月の国家安全保障戦略に盛り込まれ、政府は今年6月に有識者会議を設置。法制化に向けた中間的な論点整理を行った。また、重要インフラがサイバー被害を受けた場合には、国への報告を「義務化すべき」と明記した。報告義務を課す重要インフラは電力や鉄道など15業種となる方向だ。

政府は早期に法制化を進め構えだつたが、憲法が保障する「通信の秘密」との整合性などを課題も多く議論は停滞している。経済対策を優先し、今年の臨時国会への提出は見送りとなつた。法案成立に向けた衆院選が盛り込んだ国民民主党に協力を呼び掛ける方針だ。

11月18日、東京・八重洲にて消費者庁ほか関係省庁主催による、食品に関するリスクコミュニケーション「食品中の放射性物質（今と未来への歩み）」が開催された。これは食品に含まれるリスクについて正しい知識を発信し、広く啓発を行うもので、セミナーと意見交換の形式を取り、25日には大阪市でも開催されている。

今回テーマとなつた放射性物質は、福島第一原子力発電所の事故に関連する処理水の2023年夏の海洋放出開始以来、特にセシウムなどが常に関心の対象となってきた。基調講演「放射性物質についての基礎知識」を行つた国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所放射線規制科学部研究部長付の熊谷敦史氏は、まさに放射線が遺伝子（DNA）に傷をつけた仕組みから始まり、日常生活のさまざまな場面で自然放射線が発せられていること、体内に取り込まれた放射性セシウムは尿として排出されていくこと、福島で住民に放射線による健康影響は優位さが見られないと述べると考えられていることなどを詳細に解説した。

続いて消費者庁消費者安全課

食品安全調査室の柿谷康仁室長補佐による「消費者庁における風評影響の抑制に向けた取組」をはじめ、各省庁から同テーマに関する情報提供が続き、その後パネルディスカッションも行われた。

## ◆総務省サイバーセキュリティ政策最前線

# ICTサイバーのセキュリティ中期重点方針

総務省サイバーセキュリティ統括官 山内 智生



やまうちともお

昭和40年3月28日生まれ、兵庫県出身。平成元年郵政省入省。京都大学大学院工学研究科修了。28年内閣官房内閣審議官兼内閣サイバーセキュリティセンター副センター長、令和3年総務省大臣官房審議官(国際技術・サイバーセキュリティ担当)、4年6月より現職。

情報通信研究機構(NICT)のIPアドレス30万個を活用して観測しているのですが、グローバルなサイバー攻撃関連の通信数は確かに年々増加傾向にあります。攻撃の背景もかつてはサプライチェーン全体へとさぶる内容へと質そのものが変容してきました。当然、防御する範囲も個人から企業、さらにはサプライチェーン全体へと、とても防ぎきれない範囲まで広がりつつあります。各国では証

券取引所が数日にわたり取引停止に追い込まれたり、国家非常事態宣言を発するまでに発展した事案も生じました。既に古い事例に属するのですが、2015年に発生した日本年金機構への標的型攻撃は、保険料データなど合計125万件の個人情報が漏洩するという甚大な被害をもたらしました。本事案に限らず、攻撃してきた犯人はサプライチェーン全体へと、とても防ぎきれない範囲まで広がります。名古屋

情報通信研究機構(NICT)

券取引所が数日にわたり取引停止に追い込まれたり、国家非常事態宣言を発するまでに発展した事案も生じました。

既に古い事例に属するのですが、2015年に発生した日本年金機構への標的型攻撃は、保険料データなど合計125万件の個人情報が漏洩するという甚大な被害をもたらしました。本事案に限らず、攻撃してきた犯人はサプライチェーン全体へと、とても防ぎきれない範囲まで広がります。名古屋

デジタルの進展とサイバー攻撃からのセキュリティは常にレールのように軌を一にし、ある意味その対策は果て無く進む。産業界、特に経営層は常に最新の動向把握とリスクマネジメントに対する高い意識を保持することが求められる。長らく内閣サイバーセキュリティセンターに在籍し、この間数々の問題事案に対峙して情報収集や課題の表出、そして解決への方途を見つめてきた山内統括官に、直近のサイバーセキュリティ状況を解説してもらった。

サイバー空間は刻々と、かつては良い方向へ変化し続けていますが、その変化に伴うリスクも常に表裏として発生します。2021年に取りまとめられた「サイバーセキュリティ戦略」において、サイバー空間の「公共空間化」が一層進展、と表記されましたように、70歳以上の高齢者におけるスマートフォン保有率、インターネット利用率はいまや9割を超えました。その数年前には同5～6割程度だったことと比較すると急速に普及が進んでいると言えるでしょう。また、子どもなど若

基本的には良い方向へ変化し続けていますが、その変化に伴うリスクも常に表裏として発生します。2021年に取りまとめられた「サイバーセキュリティ戦略」において、サイバー空間の「公共空間化」が一層進展、と表記されましたように、70歳以上の高齢者におけるスマートフォン保有率、インターネット利用率はいまや9割を超えました。その数年前には同5～6割程度だったことと比較すると急速に普及が進んでいると言えるでしょう。また、子どもなど若

で港湾は重要なインフラに指定されていなかったのですが、これ以後サイバーセキュリティ基本法における重要インフラ、経済安全保障上の基幹インフラに指定されています。これらランサムウェア攻撃に対する基本的な備えとして、ソフトウェアの定期的なアップデート、バックアップとリカバリの計画、ネットワークのセグメント化、従業員教育、セキュリティ・ソフトウェアの仕様、多要素認証(MFA)、信頼できないダウソードの回避、等が考えられます。もちろんこれを全て備えておけば必ず攻撃を防げるというわけではありませんが、ある意味基本的かつ当然実施するべきポイントであるとしてもリスクは下がると思います。

## 変化するリスク、影響も

### 増大

年層でも顕著な増加がみられます。そのほかオンライン行政手続き件数の伸びも堅調、テレワークも出勤への振り戻しがやみられるところですが制度としてはほぼ定着したと捉えています。

こうした状況を背景に、リスクもまた近年大きく変化しています。旧来型のフィッシング詐欺、偽SNS、ランサムウェア等の被害件数、被害額はいずれも年々上昇・増加しています。

特にランサムウェアは攻撃側が標的となる企業等のビジネス規模を的確に分析する傾向にあり、大規模被害に直結する攻撃の場合は億単位の身代金を要求されることが半ば当然になりました。またリモート会議の時などに使用するソフトウェアが攻撃にさらされるケースが2020年3月以後、つまりコロナ禍に入つてから急増しました。

## 筆頭は、「障害対応体制の強化」

前述しました港湾を含め、全15分野の重要インフラにおいてサイバーセキュリティに係る行動計画が策定されています。その主たるポイントは、「安全基準等の整備・浸透」「情報共有体制の強化」「リスクマネジメントの活用」「防護基盤の強化」から成る主要項目の筆頭に、「障害対応体制の強化」が置かれていました。つまり各層の方々にそれぞれの役割を考えていたいた上で、組織統治すなわちコーポレートガバナンスの一環としてサイバーセキュリティを位置付けてほしい、経営層の

## ◆国土交通省上下水道政策最前線

# 統合されたわが国 上下水道政策の今後 —水道分野移管の意義と背景—

国土交通省上下水道審議官 松原 誠

## 整備過程を異にする水 道・下水道

本年4月、厚生労働省、国土交通省にそれぞれ分かれていた水道、下水道の所管が水道水質基準関係を除き国土交通省に一本化されました。そこでまず上下水道行政のこれまでの流れを振り返ってみたいと思います。

日本は水道水をそのまま飲める世界的に数少ない国とよく言われます。これは確かにその通りで、我が国の水道技術の高さを証明していると思います。もう一つ、日本では水と安全はタダ、ともよく口の端に上ることろですがこちらは全く事実と異なり、現場の方々の多大な労苦の上に安全な水の供給が実現できているのです。こうした点の理解促進にも、もつと努める必要があると認識しております。

水道の普及は高度成長期の人口増に対応し、各都市が独自に整備を進める形で進展、現在で

は普及率ほぼ100%に達しています。一方、下水道は国の主導あるいは強力な支援の下で整備が図られ、汚水処理の普及率は30年ほど遅れて水道を追いかける形となり、現在約93%です。若年世代においてはほぼ、生まれたときから上下水道があつて当たり前になっていると思いますが、これまでの整備についてはそれぞれ背景、性格、財源を異にしてきました。

所管省庁については、昭和の初期まで水道・下水道はともに内務省が所管し、その後、厚生省、建設省が設置された後は、両省に水道課がおかれ共管していました。それが1957(昭和32)年、いわゆる水道行政3分割が行われ、厚生省は水道と下水道のうちの終末処理場、建設省は管轄を主体に下水道を所管することとなりました。今回の水道行政移管は水道行政3分割から実に67年、それだけ大きな行政機構の再編であると言

えるでしょう。

上下水道のそれぞれの予算(国費)を比較すると、前述の通り水道はこれまで自力で建設が進んできたこともあって下水道に比べると予算額がはるかに小さく、水道が補正予算込みで約700億円であるのに対し、下水道は同6000億円弱となっています。2001年当時から比べると、公共事業予算の減少に連動して下水道は約2分の1、水道予算は約3分の1にまで減少しています。一方

## 地方整備局で水道行政を担当

水道、下水道とも、時代に応じて行政ニーズが変遷してきました。近代水道の端緒は、コレラの流行への対応であり、その後戦後復興に伴う水道の整備普及、人口増加に伴う水需給の

ひつ迫への対応、安全でおいしい水の供給を経て、現在では人口減少社会における施設の老朽化対策等、水道の持続可能性を図ることが主要な行政課題となっています。つまり、右肩上がりの時代は水量、水質の確保に重点が置かれてきましたが、現在は、水道をいかに次の世代につなげていくかが問われています。

こうした背景の下、未曾有の国難の中で、2022年6月の新型コロナウイルス感染症対策本部において、厚生労働省における感染症対応能力を強化することとあわせて、生活衛生関係の組織について一部業務の他府省への移管を含めて組織の見直しを行うことが決定されました。この方針に従い政府部内で検討が行われ、同9月には水道設備・管理行政の国土交通省および環境省への移管が決定された、という次第です。方針

翌23年に「生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律」が成立し、移管準備チーム設置、予算要求、組織要求等のプロセスを経て、本年4月に水道行政が国土交通省へ移管されました。この法律では、社会資本の整備に関する知見等の活用による水道の基盤強化の観点から水道行政を国土交通省に移管するとされており、これまで厚生労働省が築いてきた土台の上に、国土交通省の強みであるインフラ管理の視点を加えることにより、より強靭で持続可能な水道を目指していくこととしています。

また、この法律により、水道を公共土木施設災害復旧事業費



まつばら まこと

昭和41年9月29日生まれ、新潟県出身。京都大学工学部卒業、同大学院工学研究科修了。平成3年建設省入省、28年国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道企画課下水道事業調整官、30年北陸地方整備局河川部長、令和元年水管管理・国土保全局下水道部下水道事業課長、4年下水道部長、本年4月より現職。

決定の約1年前、21年10月には

を公共土木施設災害復旧事業費

◆シリーズ／地方版図柄入りナンバープレート促進のために

地方版図柄入りナンバープレートから、地域の人々の熱意を感じ取る



あいさわ いちろう

昭和29年生まれ、岡山県出身。慶應義塾志木高等学校、慶應義塾大学工学部卒業。55年松下政経塾入塾（第1期生）、61年衆議院議員当選（以後、当選13回）、平成4年通商産業政務次官、9年衆議院外務委員長、15年外務副大臣、18年衆議院議院運営委員長、19年衆議院予算委員長、22年自民党会員対策委員長、23年自民党総裁特別補佐、27年自民党一億総活躍推進本部長、28年衆議院政治倫理審査会会長などの要職のほか、自由民主党自動車整備議員連盟会長、オートバイ議員連盟会長、バス議員連盟会長など務める。

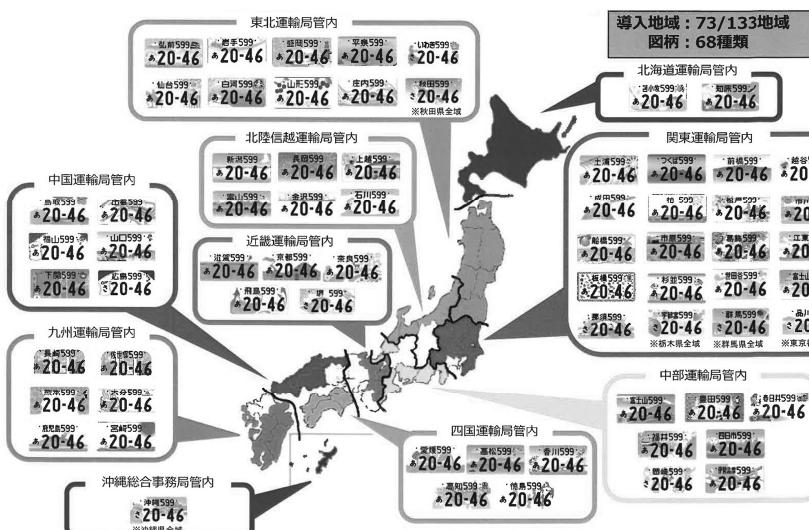
プレートは、「この地域の図柄入りナンバープレート」から、地域の人々の熱意を感じ取る

が導入されたのは、17年4月に交付された全国版の「ラグビーワールドカップ特別仕様図柄ナ

ですが、行くたびに図柄入りナンバープレートを見かける機会が増えました。まさに、国民の皆さん、また自動車のユーザーの方が図柄入りナンバープレート制度を歓迎してくださっていると実感します。図柄入りナンバープレート制度が、日本で徐々に定着していることを大変うれしく思いますし、高く評価したいと思います。

特に地方版図柄入りナンバープレートは、「この地域の図柄

はどんなのかな」とか、「この地域の図柄は、スマートで格好いいな」と、大変気になります。「この地域はこんなことで自治体あるいは地域の皆さんの気持ちは一つになつているんだな」「こういうふうに地域を盛り上げていこう」という地域の意欲的な姿勢が感じられます。



◆シリーズ／地方版図柄入りナンバープレート促進のために

# 地方版図柄入りナンバープレートから、地域の人々の熱意を感じ取る

衆議院議員  
(自由民主党自動車整備議員連盟会長・  
オートバイ議員連盟会長・バス議員連盟会長)

逢沢 一郎



今月号のシリーズ「地方版図柄入りナンバープレート促進のために」は、衆議院議員（自民党自動車整備議員連盟会長）・逢沢一郎氏と参議院議員有村治子氏に話を聞いた。

（聞き手・中村 幸之進）

左は、2017年4月から交付されたわが国初の図柄入りナンバープレート、「ラグビーワールドカップ特別仕様」ナンバープレート（全国版）。

——第4弾地方版図柄入りナンバープレート（「十勝」「日光」、「江戸川」、「安曇野」、「南信州」など5地域）の図柄が今月発表になります。この第4弾は2025年5月をメドに追加交付されることになりました。これらを含め合計73種類の図柄が付されることになります。

18年10月に、地方版図柄入りナンバープレート第1弾が交付されて以来、全図柄の過半数の地域で導入されており、有識者の皆さんに聞いても「地方版図柄入りナンバープレート制度は約6年で国民の間に、地域に対する愛着を示すツールとして徐々に根付いている」と高く評価されています。逢沢議員は、地方版図柄入りナンバープレート制度についてどのようにお考えでしょうか。

逢沢 私は、国会議員という立場上、全国いろいろな場所に講演などに行くことが多いので

ナンバープレートを通して、いかなる社会メッセージを出すのか



ありむら はるこ

昭和45年、石川県生まれ。国際基督教大学卒業、米国SIT大学院修士修了。平成13年、参議院選挙 比例代表（全国区）にて初当選、現在4期目。文部科学大臣政務官、参議院環境委員会委員長などを歴任。平成26年、安倍内閣にて初代女性活躍担当大臣、國務大臣（少子化対策・行政改革・国家公務員制度・規制改革・男女共同参画・消費者及び食品安全担当）参議院自民党政策審議会長、政治倫理審査会会長、裁判官弾劾裁判所 裁判長、自民党広報本部長、憲法改正実現本部副本部長、参議院自民党副会長などを歴任し、現在、参議院情報監視審査会長・自民党両議院総務会長を務める。

長はじめ地方議員は自分たちの車に団柄入りナンバープレートをつけることができるようになった、と。

有村 その通りです。その後、国土交通省と総務省が連携し、「首長や議員が、地方版団柄入りナンバープレートを購入して寄付行為にはあたらない」と明確に議論を整理されました。

——当時は、安倍晋三内閣でしたね。

有村 全閣僚が出席し、最も緊張感のある予算委員会では、安倍総理をはじめ、全閣僚が、

この問題に関心を持つていただきました。実は地域を代表する議会人・国会議員は、「ご当地モノ」が大好きです。当時、団柄入りナンバープレート制度は、現在ほど知られていませんでしたが、私は「うまく情報発信すれば、『地元愛』のある人々のハートに届く」と確信していました。

——さらに、有村議員は、当時の同プレート普及率第1位「福山」と第2位「熊本」の両自治体首長に国土交通大臣との面会の機会を企画されました。

有村 予算委員会での質問通



参議院予算委員会で質問に立つ有村治子参議院議員（2019年3月）

地方版団柄入りナンバープレートが国会で大きく取り上げられたのは有村議員によるこの質問のタイミングと言つてよいだろう。有村議員が指摘するように、どの国会議員も熱心に地方版団柄入りナンバープレートの資料に目を通している様子がうかがえる。

# ナンバープレートを通して、いかなる社会メッセージを出すのか ～災害復興・応援の絆も～

参議院議員

有村 治子

有村治子参議院議員は、地方版団柄入りナンバープレートを国会質問で取り上げたそうですが、その経緯について教えてください。

有村 2019年3月、NHK全国中継がなされた参議院予算委員会にて、自民党を代表し政策審議会長として国会質問に立ち、「地方版団柄入りナンバープレート」を取り上げました。当時は、全国版のラグビーワールドカップ特別仕様、2020東京オリンピック・パラリンピック特別仕様のナンバープレートが市中に出ていた頃です。

「地方版団柄入りナンバープレート」のカラー版を入手するには、1000円以上の寄付をすることが前提となっていました。私は北海道から沖縄まで47都道府県を選挙区とする比例区（全国区）の選出ですが、自分の車にカラー版のナンバープレートをつけようすると「カラーブレートは寄付金を前提としているので、公職選挙法が禁じる寄付行為にあるおそれがある」と止められます。選挙

で選出された「地元大好き人間」が「ご当地プレート」を入手できないということが各地で生じており、事実、京都府議会や滋賀県議会でもこの件が問題なっていましたので、公職選挙法に抵触する疑念を解消すべきだと思、国会質問しました。

質問の反響はどうでしたか。

有村 まず、知事や市長といった首長や各級議会の議員からは大変、喜ばれました。そもそも知事部局や市長は、地域の良さをPRするためにさまざまに議論を積み重ねて同プレートを導入した、いわば当事者です。私は、「お国自慢ご当地ナンバーのPRを率先して行いたい議会人が、カラー版ナンバープレートをつけることができないのは、走る広告塔としての趣旨にそぐわないのではないか」と当時の国土交通大臣に再考を迫り、国交大臣から「前向きに検討していく」という答弁を引き出し、結果としては正されました。

つまり、有村議員の国会での質問がきっかけとなつて、首

## ◆内閣府国際平和協力政策最前線

# わが国の国際平和協力活動の現状と課題

内閣府国際平和協力本部事務局参事官 植草 泰彦



うえくさ やすひこ

昭和 51 年 2 月 19 日、東京都出身。早稲田大学法学部卒業、同大学院法学研究科修了。平成 12 年総理府入庁。28 年国務大臣秘書官、30 年内閣府大臣官房総務課企画官、令和元年内閣府政策統括官付企画官、3 年復興庁統括付参事官等を経て、5 年 7 月より現職就任。



(資料：国際平和協力本部)

であることや、各国から集まる隊員が活動するにあたっての周辺環境の安全確保が強く求められます。ルワンダで大虐殺を止める手立てがなかつたことや、ソマリア内戦からの撤退等々のケースでPKOの限界を露呈したこともあり、現在ではPKOを成功させるために不可欠な基本原則として①紛争当事者全員の同意と協力を得る、②中立的な立場を維持して一勢力を肩入れしない、③自衛および任務防衛以外で実力を行使しない、の

三つが徹底されています。その上で日本がPKO法に基づき自衛隊員を海外に派遣するためには、さらに厳しい条件をクリアしなければなりません。日本がPKOに参加する条件として①停戦合意の存在、②当事者の同意、③中立性、④必要最小限の武器使用、⑤日本が独自に撤退できること、の「PKO参加5原則」が定められています。これらの原則は憲法9条との整合性を担保するものという重要な位置付けで、一つでも達

最初のPKOである「国連休戦監視機構(UNTSO)」が設立された1948年は冷戦時代で、紛争と言えば国家間の争いが主だったため国境沿いの停戦監視が活動の中心でしたが、冷戦終結後、その背景は一変しました。紛争の形態が多様化し、宗教対立や民族対立に根ざす内戦や、反政府勢力と現政権の対立など、関与する主体も多様化。複雑化の一途をたどりました。それに伴い、PKOの役割は停戦監視だけでなく広義の平和構築へと拡大し、具体的には文民監視の派遣や、行政支援、選挙監視、人権の保護など「国づくり」をサポートする任務を幅広く担うようになっています。

わが国がPKOに積極的に参加するようになつた契機は、1990年代の湾岸戦争でした。イラクがクウェートに侵攻した際に多国籍軍が編成され、日本は多額の経済的支援を行つたにもかかわらず、人的貢献ができなかつたことで国内外から強く批判を受けてしまいました。これを受けて当時国会で議論が行われ、多国籍軍に参画するための法案は廃案になつたものの、その後、自国の外交・安全保障政策のためにも国際社会において人的に貢献しなければならないという認識の下、92年に「国際平和協力法」、いわゆるPKO法が制定されたわけです。

内閣総理大臣が務め、関係閣僚が参加する組織構成になつており、関係省庁が協議してから最

もそもそもPKOの展開においては、現実的に達成可能な任務では、内閣総理大臣が務め、関係閣僚が参加する組織構成になつており、関係省庁が協議してから最も重要な位置付けで、一つでも達成できなければ派遣はできないのです。国際平和協力本部は本部長をして、内閣総理大臣が務め、関係閣僚が参加する組織構成になつており、関係省庁が協議してから最も重要な位置付けで、一つでも達成できなければ派遣はできないのです。内閣総理大臣が務め、関係閣僚が参加する組織構成になつており、関係省庁が協議してから最も重要な位置付けで、一つでも達成できなければ派遣はできないのです。

## ◆経済産業省素材産業政策最前線

# 素材産業の国際競争力強化とCN、GX実現に向けた取り組み

経済産業省製造産業局  
素材産業課長 土屋 博史



つちや ひろし

昭和48年11月生まれ、神奈川県出身。東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻。平成10年通産省入省(中小企業庁計画部計画課)。26年経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課医療・福祉機器事業室長(併)国際展開推進室長、28年新エネルギー・産業技術総合開発機構ワントン事務所長、令和元年経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力発電所事故収束対応室長、2年資源エネルギー庁資源・燃料部石炭課長、3年長官官房カーボンリサイクル室長を併任、4年経済産業省商務・サービスグループ参事官(併)博覧会推進室長、5年商務・サービスグループ参事官を経て、5年8月より現職。

— こうした変化への対応として、2022年以降、GXの議論が加速しています。これまで

GX加速に向けた取り組み

います。さらに、こうした活動を支えるDX人材の育成・確保といった課題解決に向けた取り組みも加速しており、これらの活動やGXを通じて素材産業のサプライチェーン全体の付加価値を向上させることで、内需・外需の獲得を目指しているというのが素材産業における現状です。

— こうした動きを踏まえつつ、2023年度から試行された「GXリーグ」は、24年度には700を超える事業者などが参画。わが国の温室効果ガス排出量の5割超をカバーしており、排出量取引制度の26年度本格導入に向けて、検討が進められています。また国による世界初のトランジション・ボンドである「GX経済移行債」の発行や、23年末には「分野別投資戦略」が取りまとめられ、足下から今後10年程度のGXの方針が提示されています。24年5月、こうしたGX政策を進める中、政府(GX実行会議)は事業環境の予見可能性を高め、日本の成長に不可欠な付加価値の高い産業プロセスの維持・強化につながる国内投資を後押しするため、産業構造・産業立地・エネルギーの取り組み、また進捗についてお聞かせください。

— GXの取り組みの一つであるGI(グリーン・イノベーション)基金を活用した素材産業分野の取り組み、また進捗についてお聞かせください。

— GI基金を活用して、プラ

土屋 化学、紙・パルプ、セメント、硝子などの素材産業は、高い国際競争力を有する生産体制を構築しつつ、自動車や電機産業をはじめとしたさまざまな産業に高機能な部素材を提供とともに国内雇用や地域経済を支える重要産業といえる。しかし加熱するグローバル競争やサプライチェーンのリスク上昇、そして2050年CN(カーボンニュートラル)実現を背景として、産業構造を変える必要があるほどの大きな変革が求められている。そのため官民一体で取り組むGX(グリーン・トランスフォーメーション)や昨年末より進められている「分野別投資戦略」の進捗、そしてGX経済移行債事業を通じたGXとサプライチェーンの強化を両輪とした取り組みについて素材産業課の土屋課長に話を聞いた。

— 素材を加工し、他産業へ材料として供給するほか、自ら最終製品に近い形態まで加工する素材産業。その産業規模から日本・地域産業の基幹産業ともいわれていますが、製造工程でCO<sub>2</sub>排出が不可避な分野も多く、CN実現に向けて産業構造の変革を求められている産業であります。では改めて素材産業の概要から産業を取り巻く変化・現状についてお聞かせください。

土屋 化学、紙・パルプ、セメント、硝子・セラミックスなどをはじめとする素材産業は、社会全体を支える基幹産業であり、まさに我が国における競争力の源泉ともいえる産業です。わが国のCO<sub>2</sub>排出量のうち、製造業が約3分の1を占め、その約4割を化学、紙・パルプ、セメントなどが占めており、素

材産業は、その生産プロセスにおいて大量の電気や熱を消費するエネルギー多消費産業でもあります。

2050年CN実現に向けて多くの産業が脱炭素化に取り組むなど産業構造が変化する中で、素材産業は人口減少などを背景に国内需要は緩やかに減少傾向にある一方、海外需要は引き続き伸長傾向にあり、グローバルでの競争環境は激化しています。なかでも日系の素材メーカーは半導体材料や蓄電池材料などの機能性化学品分野をはじめとして、市場規模や売上規模は限定的でも世界シェアや収益率が高い製品を有しており、それらを支えているのがエチレンをはじめとした基礎化学品になります。

また近年では、競争力を有する機能性化学品とそれを支える基礎化学品領域のさらなる競争力強化に向け、MI(マテリアルズ・インフォマティクス)やAIを活用した新素材開発、そして生産性・収益性向上を目指した研究開発や製造が加速しています。

— そういう四つの研究開発項目に取り組んでおり、それぞれ着実に進捗しています。これらに加え、化学産業におけるCNをさらに加速させるため24年6月、①混合プラスチックからの基礎化学品製造技術開発、②廃棄物からのカーボンプラック再利用技術開発の二つが研究項目に追加されました。

またセメント分野では、コンクリートで2項目(①CO<sub>2</sub>排

出削減・固定量最大化コンク



シティ青果成田市場株式会社  
代表取締役社長

豊田達也 氏

とよだ たつや

1975年生まれ。埼玉県出身。駒澤大学経営学部卒  
2003年株式会社神明入社。2016年株式会社神明事業  
創造室課長  
2019年株式会社成田市場青果取締役就任、  
2024年6月よりシティ青果成田市場株代表取締役社  
長就任（現任）

# 開拓者精神をも とに、海外輸出 の振興で急成長

東京農業大学教授  
(元・農林水産事務次官)

末松 広行



## 常態的赤字からの反転攻勢

末松 こちらの市場は広い敷地に新しい建屋、成田空港から至近という極めて好立地にあります。この地で事業を興されたいしさからご解説をいただけました。

豊田 もともと私は、神戸に本社を置く米卸の株式会社神明にてお米の営業マンを13年間ほどしておりました。その後、2016年度に、同社における新規事業に携わさせていただくこととなり、以降色々な経験を積ませていただきました。

2018年11月、株式会社神明ホールディングス（以下HD）が、当時20年海外輸出の拠点として移転予定であった成田新市場における青果物の海外輸出を目的に、株式会社成田市場青果の株式を取得、開場年度の22年1月にはシティ青果成田市場と社名も変更し、新たな船出を迎えました。私は19年1月の時点で成田市に住民票を移し、当地での新規事業に向け、骨を埋める覚悟をもつて臨んで参りました。

ただ、当時の移転前の旧成田市場は市場取扱高の低下により、特に青果部門の成長率減少が著しく、売上高は700百万円～800百万円まで落ち込み、衰退していく地方卸売市場となつており、業績も年間20000千円～30000千円ほどの赤字が常態化しており、経営的には非常に厳しい状況が着任後も4年ほど続きました。

末松 旧市場時代からの既存の社員の方も含めて、職場環境の一大変革となりましたね。

2022年に開場したシティ青果成田市場は、青果物の海外輸出を核に旧市場の停滞を克服、一気に急成長を果たし、さらなる市場開拓の翼を広げようとしている。その基盤となるのは、全方位的な相談・要望への受付体制と、分野を超えた関係者間の連携構築にある。地域に根差しつつ日本の青果物を広く世界に発信する同社の取り組みを、豊田社長に語ってもらつた。